

NEWS

Tenri University Sankokan Museum

LETTER NO.18

ニュースレター NO.18

天理大学附属天理参考館

発行日：2015. 3. 15

発行：天理大学附属天理参考館

編集：広報普及係

天理大学創立90周年記念特別展

ギリシア考古学の父 シュリーマン —初公開！ティリス遺跡原画の全貌—

会期：2015(平成27)年4月15日(水)～6月8日(月)

2015年、天理大学は創立90周年を迎えます。これを機に、世界的に有名な考古学者ハインリヒ・シュリーマン(1822-1890年)が発掘したティリス遺跡の発掘報告書原画28枚を初公開致します。2015年はくしくもシュリーマンが来日して150年、ティリス遺跡発掘報告書を発刊して130年にあたります。シュリーマンという人物に迫り、彼がなした偉業を伝えられればと思います。



ティリス宮殿の壁画「牛の背で踊る男の図」

ティリス遺跡はヘラクレスの生誕地とも、単眼の巨人キュクロプスとその巨石城壁を建てたとも言われ、また吟遊詩人ホメロスは「城壁高きティリス」と謳いあげています。1999年には世界遺産に登録されています。シュリーマンが1884年に最初に発掘しました。彼は遺構や遺物を正確に図面化し、1885年にはこの原画を使って発掘報告書を発刊しています。原画なので当然1枚しかなく、世界的にも貴重な資料です。原画は厚紙に鉛筆・つけペンもしくは水彩で描いたもので、保存の観点からこのように一堂に会して展示することは、しばらくないと考えています。是非この機会にご覧下さい。

なお、本展では原画とともに、シュリーマンが魅せられたギリシアとエジプトの考古美術品、シュリーマンが活躍した19世紀の発掘報告書初版本を展示致します。シュリーマンが発掘したミケーネ遺跡から出土した



ミケーネ遺跡

宝物には金杯や鍍金青銅短剣があります。これに類似するミケーネ時代の金杯と鍍金銀錯短剣を当館が所蔵しており、展示致します。いずれも日本では当館にしかない逸品です。

また、シュリーマンが命運をかけて発刊した『トロイ遺跡』初版完本(ドイツ語版、フランス語版)も初公開します。散逸せずにすべての図版が残った完本は、世界でも数えるほどしか残っていません。これも世界的に貴重な資料です。初公開や世界的にも貴重な資料がたくさん並ぶことになります。ご期待下さい。

記念講演会Ⅰ

「シュリーマンとギリシア先史考古学の誕生」

日時：5月2日(土) 午後1時30分～

講師：周藤 芳幸氏(名古屋大学教授)

会場：研修室 定員：100名(当日先着順)

※入館料のみで受講可能

記念講演会Ⅱ

「トロイの木馬の東漸～仏教の中のギリシア図像」

日時：5月30日(土) 午後1時30分～

講師：芳賀 満氏(東北大学教授)

会場：研修室 定員：100名(当日先着順)

※入館料のみで受講可能

ギャラリートーク

4月19日(日)、5月8日(金)、

5月26日(火)、6月5日(金)

時間：午後1時30分～

会場：3階企画展示室、他

後援：外務省、ギリシャ大使館、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、奈良県、奈良県天理市、奈良県教育委員会、天理市教育委員会、毎日新聞社、NHK 奈良放送局、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 特別協力：近畿日本鉄道株式会社 協力：日本ギリシャ協会、奈良日独協会、株式会社クマヒラ、シーシーエス株式会社、天理大学ふるさと会

ティリンス 遺跡原画の紹介

ティリンスはギリシア、ペロポネソス半島のアルゴス湾東岸にあるアクロポリス遺跡で、岩の丘の上に建造されています。シュリーマンが助手のデルプフェルトを引き連れてティリンスを発掘したのは 1884 年のことです。

現在では当然ですが、発掘を進めながら遺構や遺物を記録しています。当時は重要な遺構や遺物が現れれば、画家を呼んで描かせていました。シュリーマンは宝物探的な発掘が横行していた当時では誰も見向きもしなかった土器片に注目して丁寧に描かせています。世界中の博物館や遺跡を巡り、類例を探し求めた彼の熟達さがうかがえます。



ティリンス出土土器原画
1884-85 年

翌年の 1885 年には報告書が出版されています。現在の考古学者も見習わなければならない速さです。その際、現場で作成した図面を使って報告書の図版原稿を作成し、これに印刷所への細かい指示を書き入れたものが報告書原画です。筆跡鑑定でシュリーマンの直筆と確認されました。原画ですので、当然世界で 1 枚しかありません。ティリンスの発掘日誌が残っていない今日では、これらの原画は報告書を遡れる第一級の一次資料と言えます。それが当館に 28 枚まとまった数で所蔵されているのです。

参考館メロディュー (ミュージアムコンサート)

「ハープの気軽なコンサート」
日時：4 月 25 日 (土) 午後 0 時 10 分～
出演：佐藤 雅 (ハープ)
会場：1 階エントランスホール ※入場無料

ワークショップ

4 月 26 日 (日)、5 月 5 日 (火・祝)、5 月 24 日 (日)
紙芝居「僕はシュリーマン」
時間：午後 1 時 30 分～1 時 50 分 会場：1 階エントランスホール
謎解き脱出ゲーム
時間：紙芝居終了後から約 1 時間 会場：1 階～3 階展示室
※入館料のみで参加可能、事前申込み不要

第 74 回企画展

いのりのかたち —キリスト教と民間信仰—

◆会期：2015 (平成 27) 年 7 月 1 日 (水)～8 月 31 日 (月)
◆会場：3 階企画展示室 1・2

世界は祈りで満ちあふれています。戦争のない平和な社会、健康で安定した暮らし、円満な家族関係、…。言葉や民族が違って、願うものは世界共通なのではないでしょうか。しかし、祈るときの様式や作法は千差万別とっていいほど多種多様です。それらのベースとなるのは、各地で伝統的に根付いている信仰や風習に他なりません。

「いのりのかたち —キリスト教と民間信仰—」展では、祈りの際に用いられるモノに焦点を当て、それぞれの用途やその背景にある信仰的な意味合いを紹介します。対象とする地域は、キリスト教の信者が多く分布するヨーロッパと北アフリカ、土着の信仰とキリスト教が習合した中南米です。キリスト教の信仰や世界観がヨーロッパでどのように生まれ、「新世界」のアメリカ大陸で受容されたのか。そうした歴史的観点からも展示品を見ていただけるよう構成を心掛けます。また、キリスト教と結びついている民間信仰にも着目し、祈りという行為の時間的、空間的な広がり表現したいと考えています。展示資料の中で特に注目していただきたいものは「イコン」と呼ばれる聖像画です。キリスト教の教派の一つである正教会が主に用いる祈りの道具で、信仰者はイコンを通してそこに描かれている人物や場面に思いを馳せ、祈りを捧げます。本展に出品するイコンは、そのほとんどが初公開となります。一般的にはギリシャやロシアのイコンがよく知られていますが、今回はエチオピアのイコンも併せて展示します。鮮やかな色使いと大らかな表現が特徴で、地域性を反映した作風となっています。



マルブルクの聖エリザベト教会



イコン「キリストの黄泉降り」

また、本展会期中には関連イベントとして記念講演会とトーク・サンコーカンを開催します。企画展をより深く理解していただけるような内容となっていますので、奮ってご参加下さい。さらに、ドイツ中西部にある町、マルブルクを紹介する写真展も本展の会期に合わせて開催します。ヨーロッパの伝統が息づく美しい町並みをお楽しみ下さい。

記念講演会

「バチカンから見た欧州の宗教事情」
日時：7 月 13 日 (月) 午後 1 時 30 分～
講師：上野 景文氏 (杏林大学客員教授、元駐バチカン大使)
会場：研修室 定員：100 名 (当日先着順)
※入館料のみで受講可能

ギャラリー

トーク

日時：7 月 27 日 (月) 午後 1 時 30 分～
8 月 24 日 (月) 午後 1 時 30 分～
会場：3 階企画展示室



松田顧問の考古余話⑨ ひつじ年の考古学

最近^{しやう}は飼養以外に観光目的などで羊を放牧している施設はありますが、もともと我々日本人にとって羊はあまり馴染みのある動物ではありません。江戸時代には幾度か輸入し飼育が試みられたこともあったようですが定着しませんでした。古くから中国では羊は吉祥を表す靈獣とされていましたが、わが国で羊に関する記事は、『日本書紀』推古7年9月、百濟から駱駝^{らくだ}、驢^ろ、白^{はく}、雉^ちとともに羊二頭がもたらされたとあるのが最初です。珍しい大陸の禽獣^{きんじゆう}を得ることは、国家の版図^{はんと}を誇示する意味もあったと考えられます。かなり以前ですが平城京跡の発掘調査で羊を象った硯^{かたど}が発見されましたが、奈良時代の記録を見る限り羊飼育の実態はなく、硯は絵画などを手本に作ったのでしょ。この羊形硯^{ようけいけん}の出土地は平城京左京四條四坊に当たりますが、この坊には古事記の編纂者として名高い太安万侶^{おののやすまろ}が居を構えていたことが、奈良市田原から出土した墓誌の記載から明らかになっています。もちろん広い坊の何処に安万侶邸があったかわかりませんが、ものが類例の限られる珍しい精巧な羊の硯だけに、彼の所有だったのではと想像が膨らみます。



資料紹介

渦文五鈴鏡

わが国には、弥生時代に朝鮮半島や中国大陸から青銅製の鏡が伝えられました。神話の中でも、剣・玉とともに三種の神器に数えられ、祀りや占いの場面にしばしば登場します。古来、鏡には不思議な霊力があると信じられ、さらに鈴による音響効果を加えたものが鈴鏡で、わが国独特のもので。

鈴はその音色を介して神に近づき、神の声を聞くことができる呪物^{じゆぶつ}でした。巫女^{みこ}の埴輪には鈴鏡を腰に下げたものがあり、重要なアイテムであったことがわかります。掲出の鏡は円い鏡の縁に五つの鈴を付けたもの。鈕^{ちゆう}(中心のつまみ)のまわりには渦巻きのような文様が七つ並びますが、もともとは獣をあらわしたものです。中国の鏡をまねて日本で作られたときに、文様が変わってしまいました。主に五～六世紀の中部や関東地方のに分布するのが特徴です。いまでは青黒く錆びついて顔も映りませんが、当時は金色に輝き、鈴の妙なる響きが見るもの聞くものを魅了したことでしょ。(高野)



古墳時代 出土地不詳 径8.9cm

資料紹介

次郎左衛門雛

日ごとに暖かさが増し、春めいて参りました。みなさま雛人形はお飾りになりましたか。春の訪れを告げる桃の節句の到来は、心浮き立つ華やいだ気分になりますね。

雛人形の起源は「ひとがた」と言われています。これは木片や紙を人のかたちに切ったもので、身体を撫でて災厄^{さいやく}やけがれを祓^{はら}い、水辺に流します。現在も各地に伝わる流し雛の行事と同じです。古代の祓いの道具であった「ひとがた」は、時代を経て、流さずに手元に置いて飾り、娘の成長を祝う雛人形へと発展していきます。立雛に始まり、泰平な世が続いた江戸時代には幾通りもの雛人形が生みだされます。そのなかの一つのスタイルが、今回ご紹介する次郎左衛門雛です。京の雛屋次郎左衛門が考案したと伝えられ、この名がついています。まん丸の顔にきよんとした引目鉤鼻^{ひきめかぎばな}の表情の愛らしさが人気を博しました。次郎左衛門は後に幕府御用達となり、江戸日本橋に移りますが、江戸でも宝暦年間(1751-1764年)大いに流行します。伝統的と思われがちな雛人形も、江戸中期から150年間程の間に実に8通りぐらいのモデルチェンジがおこなわれました。宝暦好みのこのお顔は平成の皆様のお気に召さずでしょうか?(幡鎌)



江戸時代 高さ9.0cm

公開講演会トーク・サンコーカン

- ◇いずれも午後1時30分開講
- ◇会場：研修室
- ◇受講料：無料（ただし入館料が必要）
- ◇定員：100名（申込不要）

第236回『シュリーマンのティリンス遺跡原画を探る』

4月18日（土）講師/巽善信 学芸員

ティリンスは、ギリシアにある城壁の巡るアクロポリス遺跡です。1999年には世界遺産に登録されています。シュリーマンが1884年に最初に発掘しました。遺構や遺物を正確に図面化し、1885年にはこの原画を使って発掘報告書を発刊しています。原画なので当然1枚しかなく、世界的にも貴重な資料です。その主要な原画28枚を参考館が所蔵しています。ドイツ、ギリシアと渡り、調査を進めて行く過程で明らかとなった事実をお話します。

第238回『いのりのかたち—キリスト教と民間信仰—』

7月25日（土）講師/梅谷昭範 学芸員

企画展「いのりのかたち—キリスト教と民間信仰—」をより深く味わっていただくために、それぞれの展示品について展示解説では書き尽くせなかったことを掘り下げて紹介したいと思います。また、現代のわれわれの暮らしの中にキリスト教がどのように影響を及ぼしているのか、様々な側面から改めて考えてみます。

第237回『明治の息吹き 石版画さまざま』

6月20日（土）講師/中谷哲二 学芸員

明治時代に入り、これまでの伝統的な木版印刷に加えて、銅版印刷、石版印刷、活版印刷など多様な印刷技術が日本に流入し積極的に実用化されていきます。明治20年代頃は特に「砂目石版画」という、一見すると鉛筆画のような素朴な印刷物が人気を博しました。今回は主にこの砂目石版により描出された様々な明治風俗の刷り物をご紹介します。

第239回『近鉄天理線 開業100年の歩みをたどる』

9月19日（土）講師/乾誠二 学芸員

大正4(1915)年に天理軽便鉄道が天理法隆寺間を開業し、今年でちょうど100年を数えます。天理軽便鉄道は大正10年に大阪電気軌道(近畿日本鉄道)天理線および法隆寺線(後に廃線)となり、これまで地域住民の足として重要な役割を担うとともに、観光や天理教信者輸送に活用されてきました。本講では乗車券や関連資料から天理線100年の歩みを振り返ります。

第240回 10月24日（土）東アジアの霊獣—企画展にあわせて— 講師/太田三喜 学芸員

第241回 11月28日（土）日本の霊獣—蹴鞠の精や疱瘡神の化身など— 講師/幡鎌真理 学芸員

第242回 1月23日（土）古代の鏡—文様に込められた人々の願い— 講師/高野政昭 学芸員

第243回 2月20日（土）生活文化から生み出された“イメージの世界” 講師/吉田裕彦 学芸員

第244回 3月19日（土）石上・豊田古墳群—大型首長墓と群集墳— 講師/日野宏 学芸員

ワークショップ (折紙を楽しむ) 参加者の声!

四苦八苦して真似しながら折り進め、説明書を見ることもなく、ただただ一生懸命に取り組んで出来上がった時はやはり嬉しかったです。楽しみにしていた折り紙の難しさ!これからもできるようにになりたいです。

教えていただいた作品を知人にもらっていただく一年を過ごしました。今では「今度は何かしら?」と楽しみにいただき、「折り方を教えて!」といった声もありました。最初、指先に力を十分入れられずにいたのが、今ではうまく折れるようになったので指先のリハビリにも良いかなと思っています。

外国の方に折り紙を作って差し上げると喜ばれるので、これからは習っていこうと思います。指先を使うことで脳のトレーニングも出来ると喜んでます。

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学 附属

天理参考館

TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM

住所：〒632-8540 奈良県天理市守目堂町 250

TEL：0743-63-8414 FAX：0743-63-7721

URL：http://www.sankokan.jp/

開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

入館料：大人400円/団体(20名以上)300円

小・中学生200円(学校単位の団体は無料・事前申し込みが必要)

天理参考館
webサイト

